

青松に点綴するスマートな工場、ほんとに公害などとも考えられない理想的な開発のように思えたのである。

常陸川逆水門に着いたのは、長い夏の日も暮れかかる頃で、真赤な入陽にさざ波が美しかった。この逆水門の完成で沿岸の水田が長い間の塩害から救われることになるのだと説明されたのであるが、これが今に至って鹿島の工業用水確保のためのものであることがわかったのである。

その後その先輩は過労がもとで健康を害され、村長の職も辞めて療養されていたので見舞を兼ねて例のメンバーで時々押しかけたものでした。ところが行く度に急ピッチで進む開発は驚くばかりで通い馴れた道なのにまごつくことしばしば、あの美しかった松林と砂浜は巨大な工場群と交わりダンプが砂塵をあげて無法につっ走り、黒煙がもくもくと立ち昇っているのである。公害を少なくする為に煙突の高さをより高くするのだと工事関係の方から聞いたことがあるが、たしかに、うすめられてより広範囲に拡散されているようで、神宮橋を渡るころから、空はどんよりと曇ったようになっていた。

その先輩はとうとう昨年の春に他界されてしまった。実に豪放いらくなん人で、どこか親分肌のところがあり、歳多に弱音をはいたり世迷事などしない剛直、純情な人で

したが、開発で経済的に豊かになればなるほどその反面人の心が荒廃し、精神的なものが失なわれてしまうのではなからうかと、一回だけ不安を洩らされたことがあった。

生前の人となりを慕って各方面からの弔問を受け、「院殿大居士」の大戒名をおくられ祖先の墓に永眠されたのであるが、今尚健在であつたら、何かをつぶやいたのではなからうかと思われるのである。今年も九月に彼岸参りに行くことになっている。

常陸川逆水門の事が最近、霞ヶ浦の漁業との関係でよく話題になったり、新聞に出るようになったが、始めは沿岸の水田を塩害から守ることが目的で、漁業との関係を考えて、その開閉を調整することになっていたのが、いつの間にか閉めっぱなしになり、これまで水田の塩害ばかりが表面に出されていたのが最近堂々と鹿島の工業用水が表面に出るようになったのであるが、いよいよヴェールを脱いで正体を表わしたようである。

私達は、もうこれ以上の便利さや、物質的な豊かさを追求してはならない。新幹線も、高速道も、コンコルドもそれ程必要なものだろうか。まして海底開発など